

生涯研修プログラム 2. 日本産婦人科医会・研修ノートレビュー

2) 感染症 2

(1) 性感染症合併妊娠の管理

弘前大学助教授 藤 井 俊 策

無症候化した性感染症が若年女性に蔓延した結果、妊娠時に性感染症と診断される女性が増加している。妊娠中の感染は子宮頸管炎、絨毛膜羊膜炎により流・早産を引き起こすばかりでなく、さまざまな経路で母子感染を引き起こすため、早期に適切な治療を施すことが重要である。治療の目的は、母体感染の治療、胎児あるいは新生児感染症の防止ならびに治療、その結果としての妊娠経過の安定、の3点にある。主な性感染症の分娩周産期における管理指針は一般化され、母子感染の予防については一定の効果が得られているが、妊

婦への薬剤投与の安全性については十分なエビデンスが得られていないものが多い。したがって、投与の際には妊娠の薬物動態に及ぼす影響、薬物の経胎盤移行性および胎児への影響などに細心の注意を払い、単剤を必要最小量で短期間投与するのが原則である。ここでは、最も感染者の多い性感染症であるクラミジア・トラコマティス感染症、それに次いで増加傾向にある淋菌感染症、不顕性感染が問題とされている性器ヘルペスなどを中心に、主な性感染症合併妊娠の管理について個別に解説する。

(3) 母子感染(ウイルス 1)

東京大学講師 小 島 俊 行

本講演では、母子感染の各論として、以下の病原体につき概説する。ウイルスでは、麻疹ウイルス、ムンプスウイルス、インフルエンザウイルス、エンテロウイルス属(コクサッキーウイルス、エンテロウイルス、ポリオウイルス、エコーウイルス)、EBウイルス、ポックスウイルス、ロタウイルス、クラミジア属のクラミジア・トラコマティス、細菌では梅毒トレポネーマ、B群溶血性連鎖球菌、淋菌、リステリア、原虫のトキソプラズマである。研修ノートに記載してあるようにそれぞれ病原体につき、感染経路、潜伏期間、臨床診断方法、症状、感染期間、感染のリスク因子、妊娠・胎児へ

の影響、垂直感染率、垂直感染予防法・治療法、母児の隔離・感染防止対策、スクリーニングの必要性、出生児の感染診断・治療・管理法などを解説する。

注目されているエンテロウイルス、リステリア、トキソプラズマを詳しく述べる。また我が国における各病原体の最近の動向、特に最新の知見や管理方法について述べたい。ノートに記載できなかった基礎データや参考となる点などを提示し、ノートの記述の理論的根拠を示す。研修ノートの理解にお役立て頂きたい。